

このチラシは、伊丹市議会議員「相崎佐和子」が、市政情報などをお届けすべく発行しているニュース紙です。

毎月発行しており、ポストイング・駅やスーパーマーケット前での配布・郵送などでお届けしています。



相崎佐和子

どうなる？どうする？高齢者の居住施設！

先日、こんなお声をいただきました。「90代の祖母が一人暮らしをしている。高齢者施設への入所を考えているが、どこがいいのか？空気がないとも聞かし・・・」。

この方は結局、有料老人ホームに入居されましたが、超高齢化社会に向かい、介護が大きな課題となっている日本。このような悩みは珍しいケースではありません。そこで今回は、**高齢者の居住施設**について取り上げます。

■伊丹ではこんな施設があります！

まず伊丹市内にはどんな高齢者向け施設や住居があるのか？ 介護保険が使えるか否かなど、内容によって様々な種類がありますが、ざっとあげると下記のような施設・住居があります。

- 特別養護老人ホーム：5ヶ所
- 小規模特別養護老人ホーム：4ヶ所
- グループホーム(認知症対応型共同生活介護)：9ヶ所
- 養護老人ホーム：1ヶ所
- 軽費老人ホーム(ケアハウス)：2ヶ所
- 有料老人ホーム：8ヶ所
- サービス付高齢者向け住宅：9ヶ所

※相崎調べ。同じ場所で複数の施設をかねているケースあり。

※他にも介護保険施設として「介護老人保健施設」「療養型医療施設」等あり。



桃寿園・松風園

(伊丹市社会福祉事業団HPより)

■これからは“地域で”

「施設は待ちが多くて入れない!」。よく耳にするお声です。これは**特別養護老人ホーム**にて顕著でして、**伊丹でも111人待ち(H25年6月現在)**です。お待ちくださっている当事者やご家族には申し訳ない限りでは、**では今後、どう取り組んでいけばよいのか？** もちろん高齢者が安心して暮らせる施設を整備するのは大変重要なことで進めていかねばなりません。ただ、大規模な施設をドンドン増やすと、社会構造として支えきれなくなることも見えています。

そこで言われているのが、**地域で高齢者を支えていこう**という方向性。100%ホームに入居するというカタチでなくとも、様々なサポート体制を駆使することで**地域で安心して暮らしていける仕組み**をつくっていこうと、“**地域包括ケア**”といわれる考えです。

国はこの方向性で進めており、私も目前の課題を解決していくとともに、長期的視野で新しい高齢者施設のあり方を考えていかねばならないと思っています。

■小規模施設を整備中！

そのような長期ビジョンを踏まえ、伊丹では「**認知症高齢者グループホーム**」「**小規模特別養護老人ホーム**」の整備も進めています。いずれも**小規模な地域密着型の施設**であり、計画※ではH24～26年度で、それぞれ3ヶ所ずつ整備するとしています。東日本大震災などによる資材高騰・労働人材不足で少し計画が遅れていましたが、今年度中には計画値を達成する見込みです。

※正式名称は「伊丹市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第5期)」

■地域で安心して暮らせる“地域包括ケア”へ

これから高齢者の居住施設の整備をどう進めるか。とても深刻な課題です。住宅を含め、少子高齢化時代にむけた新しい社会構造を再構築する必要があるでしょう。

高齢者はじめすべての人が幸せに暮らせるような社会はどういう構造か、具体的に何を進めるべきか。私も、ホームに入居する大好きな祖母に想いを馳せながら考えていきます。皆さんもぜひご意見をお願いします。